

を端代銀を問

善曰金六拾目 銀拾貳文 毛綿に文八分

杉日毛綿 各六 を 十二 刻 百十 内 百十 引余 五 又 三 け
十文内 九 引余 五 又 三 刻 六 代銀 五 又 三 け
け 五 代銀 五 又 三 刻 六 代銀 五 又 三 け

米斤斗貳升八三百六十日俵増米三年を升八合代金百に拾八文
三步貳米銀を文に七を金を文又貳俵字がへし一と文
を石の代銀を問

善曰金又拾八文八分 米又拾六文

杉日増米 三年 を 俵 刻 七 又 三 俵 三 刻 百十
石内 百十 引余 五 又 三 刻 六 代銀 五 又 三 け

代銀 五 又 三 刻 六 代銀 五 又 三 け
米 五 代銀 五 又 三 刻 六 代銀 五 又 三 け

不知報多は分り金百六文と報三又五分分り銀七百十八文
文金を文の報分銀を費又の報八拾を文五分報多
を問 善曰拾貳貫七百貳拾七文

杉日金 百六 又 三 刻 六 代銀 五 又 三 け
十文内 九 引余 五 又 三 刻 六 代銀 五 又 三 け
うけ 六 又 三 刻 六 代銀 五 又 三 け

報七百拾八文の代り又金八文と銀貳拾又費又之け内何き金
を文ありをを戻し其代り又銀六文又と報八文八分あり
を文を費又の代銀を問

善日令六拾を女 残九女式分

初日先^六女^八右^八女^八各^八をうけ^八花^八
又^七加^三へ^三銀^七多^十乃^十内^十右^十引^十余^十を^十花^十
日^十て^十別^十錢^十代^十銀^十を^十う^十け^十残^十を^十う^十け^十
へ^十令^十代^十銀^十を^十う^十け^十

第三

是合^七元^七の物と^七を^七合^七ふ^七元^七の物と^七を^七合^七七^七元^七の^七も^七乃^七と^七残^七而^七
又^七て^七合^七教^七等^七又^七賞^七外^七教^七を^七同^七

善日六合宛

初日^七元^七と^七又^七元^七と^七七^七元^七と^七合^七法^七し^七て^七残^七を^七う^七け^七
法^七し^七て^七別^七を^七う^七け^七

未^七き^七石^七代^七銀^七に^七拾^七同^七大^七豆^七を^七石^七代^七銀^七に^七拾^七同^七大^七豆^七并^七教^七合^七
或^七拾^七又^七石^七或^七斗^七代^七銀^七等^七も^七う^七て^七銀^七を^七同^七

善日又百六拾同宛

初日^七銀^七を^七う^七け^七て^七別^七銀^七を^七未^七に^七合^七銀^七を^七う^七け^七
銀^七又^七大^七豆^七并^七此^七日^七未^七に^七合^七法^七し^七て^七外^七教^七を^七同^七
斗^七を^七別^七を^七う^七け^七

一^ツを^一元^一の物と^一に^一ツ^一三^一元^一の^一の^一と^一二^一ツ^一を^一元^一の物と^一に^一ツ^一を^一元^一の
物と^一を^一残^一又^一百^一七^一拾^一を^一う^一て^一物^一教^一等^一分^一又^一賞^一其^一教^一を^一同^一

善日或而或拾宛

初日^三元^三を^三に^三ツ^三別^三を^三二^三別^三を^三に^三ツ^三を^三う^三け^三
或^三分^三一^三ツ^三代^三銀^三を^三元^三各^三合^三法^三し^三て^三を^三う^三け^三

又百六 十人 を集めて刻せり 科米の事

場を築く人数三より百七拾八人 田紐の出はるに百石より
百石より六百石より三より石高又意ト人数出方と同

言曰 又百石 二百六十人 又百石 三より石 九百八十人
又百石 三百五十人

初曰 又百石 又百石 法して人数 三より石を刻す
石より掛りこれを因法して 又百石より掛り人数なり
うけ人数之 又百石より掛り人数なり 又百石より掛り人数なり
うけ人数之 又百石より掛り人数なり 又百石より掛り人数なり

上毛綿より五十端 中毛綿より五十端 下毛綿より五十端
三人より令式 又百石より掛り人数なり 又百石より掛り人数なり

言曰 八拾五 三百六十八端 又百石 二百八十端
七拾五 三百三十八端 又百石 二百八十端
又百石 二百八十端 又百石 二百八十端

初曰 上毛綿より五十端 又百石 二百八十端 又百石 二百八十端
又百石 二百八十端 又百石 二百八十端 又百石 二百八十端
又百石 二百八十端 又百石 二百八十端 又百石 二百八十端
又百石 二百八十端 又百石 二百八十端 又百石 二百八十端

又百石 二百八十端 又百石 二百八十端 又百石 二百八十端
又百石 二百八十端 又百石 二百八十端 又百石 二百八十端
又百石 二百八十端 又百石 二百八十端 又百石 二百八十端

よて耘耕種一日はくつ畝敷を同 他も畝三十歩

言曰ま畝十八歩

初曰一日を八畝刻を畝勤る日の分 五分一日と畝一畝勤る日の分 一日を三畝刻一畝勤く日の分 三分三畝合ま畝三働日の分 二又法ありて一と刻畝下へ 三歩をうけるなり

大豆を石三拾貳畝を石三拾畝を斗貳畝銀百三拾八畝よて味噌を煮る大豆を斗八升塩三升合せし あつと 畝敷と同

言曰大豆を石八斗 耘二石七斗 塩二斗八升

初曰大豆 斗 大豆の 三十 とうけ 三畝 耘 八升 は耘の 三十 をうけ 八升 塩 三升 の 八 をうけ 八升 と加へ 九畝 法ありて銀 百三 と刻大豆の 八 畝敷ありて 八升 をうけ耘の 八 畝敷あり 三 畝敷の外敷あり

船を被を貳十人 人 と銀拾八畝 二 借内八人 ハ 三里外てよる内九人 ハ 八里外てよる 七 人 ハ 八里外てよる 五 畝 二 應とて出銀を同

三里 八人 三畝 八人 八屋 六毛

言曰八里 九人 六畝 八人 八屋

八里 七人 八畝 八人 八屋 六毛

初曰三里 八人 をうけ 二十 八里 九人 とうけ 四十 八里 七人 をうけ 六十 法ありて銀 十八 を刻一里 二十 又うけ三里 八人 分なり 四十

増補田正一丹抄田算計大全

くけ八里九人分なり 八里 又くけ八里七人分なり

末を石を差置き分り 三石 八里の三石の
末九百九十石積登以三石の八里等分なりて積出石を教問

賃銀百貳拾石 貳里 六百石

善日 八里貳百四十石 八里百八十石

初日貳里又差分とくけ 貳里 又差分とくけ 貳里 又差分とくけ

又差分とくけ 貳里 又差分とくけ 貳里 又差分とくけ

又差分とくけ 貳里 又差分とくけ 貳里 又差分とくけ

又差分とくけ 貳里 又差分とくけ 貳里 又差分とくけ

又差分とくけ 貳里 又差分とくけ 貳里 又差分とくけ

地札を總計三石の合と名あり 八里 又差分とくけ 貳里 又差分とくけ

八百坪乃七丁なり七百人を三方へはくつて去坪乃能は

應ト人教乃離と回

二百坪乃八丁 而八十人

二百坪乃八丁 而八十人

二百坪乃七丁 而七十人

初日二百坪乃八丁とくけ 貳里 又差分とくけ 貳里 又差分とくけ

又差分とくけ 貳里 又差分とくけ 貳里 又差分とくけ

又差分とくけ 貳里 又差分とくけ 貳里 又差分とくけ

又差分とくけ 貳里 又差分とくけ 貳里 又差分とくけ

又差分とくけ 貳里 又差分とくけ 貳里 又差分とくけ

又差分とくけ 貳里 又差分とくけ 貳里 又差分とくけ

又差分とくけ 貳里 又差分とくけ 貳里 又差分とくけ

又差分とくけ 貳里 又差分とくけ 貳里 又差分とくけ

又差分とくけ 貳里 又差分とくけ 貳里 又差分とくけ

又差分とくけ 貳里 又差分とくけ 貳里 又差分とくけ

又差分とくけ 貳里 又差分とくけ 貳里 又差分とくけ

又差分とくけ 貳里 又差分とくけ 貳里 又差分とくけ

ハツて割上と後より 是より百四十と加三 法うて後より 銀八十なり
割下銀之後より 是より百四十と加三 法うて後より 銀八十なり

銀入貫三百八拾貳文と上中下三級後より 法以て十二人中三人下十八人
上を人より中を一人外割少中を一人より下を一人外割少
と中下を一人毎の銀と同

善日 上を人 貳百十六文 中を人 百八十五

初日下を人を後より 是より外割割の後より 是より中を人を後より 是より
外割割の後より 是より上を人を後より 是より十二人を後より 是より
又三人を後より 是より下の百圓は十八人とする後より 是より
銀八十なりと初下一人の銀八十を後より 是より中一人の銀八十を後より 是より上二人の銀八十を後より 是より

銀貳貫八百圓と中下三人は配と中下二の二分の一中下中の
三分の一うて配る銀を同

善日 上を貫八百圓 中七百又拾圓 下貳百又拾圓
初日下と後より 是より三とかけ中後より 是より倍うて上後より 是より各合後より 是より法は
て銀八十なりと割下銀なり三とかけ中銀八十倍うて上銀八十なり

銀六貫九百圓を三人は配ると中下二の二分の一中下中の
少配銀を同

善日 上貳貫八百圓 中貳貫貳百又拾圓
下貳貫百又拾圓

初日と中乃後より 是よりと上中の差後より 是より各合後より 是よりと銀八十なり
九百圓は加後より 是より三と割上の銀之内後より 是より中後より 是より銀八十なり

内百引下の銀なり

解上中の差百八十圓と取中の上と差一ノ下
の差三百八十圓をさす入下の上と差一ノ下三割

銀を實百拾五三人の配るとその中の内式割の中八十の六拾月少
各配銀を問

善曰 上は百八拾五 中三百六拾月 下三百月

初曰上と配るべし内式割の八とうけ中八十五下は八拾五合百六十

法して銀百六十中中差六十と加七十と割と銀八十をわけ中銀八十

内時と引下銀なり解上中の中下とも八十圓と上は銀をさす
六十圓不足なりゆへ銀をさす六十圓を加す

銀百八拾五入ふかと入ふ配る一の銀と倍して二は後一の銀
を三たびよして三は後一の銀を四たびしては後一の銀
を五たびよして五は後一の銀を問

一拾五入ふか 二拾五入ふか

善曰 三三拾七入ふか 四八拾五

又二拾五入ふか

初曰上をわく二と配る三を倍し二と倍し又と倍し各合十五法

して銀百八十を割一の銀なりと倍して二の銀なり

是の銀と加三の銀と二の銀と加四の銀と二の銀と加五の銀と

銀七百八拾五入ふかと入ふ配る一番の銀三分の一して二番は後と

二番より三番は式拾五入ふか三番より四番は外式割に式拾五

入番は外式割に式拾五入ふか一方を問

善曰 一番三百六拾三 二番百八拾五 三番九拾六

四番八拾五 五番六拾五

初曰入番と倍し外式割に式拾五入ふか外式割増三番百八十

上米を石代銀又拾圓下米を石代銀に拾圓代銀合に貫圓上
米石より下米石外貳圓より少上下石敷を問

答曰上米に十八石 下米に十石

術曰下米とを石にこれ外二圓の一をうけ上米を石に又上米の石にをう
け六十又下米石代銀に十を加一を法して四を割下米石なり
これ外二圓の一をうけ上米石なり

新米を石代銀三拾貳圓古米を石代銀に拾圓代銀合貳拾
圓新米石三分之一古米石と等し新古石敷を問

答曰新米に拾八石 古米拾八石

術曰古米と石に三をうけ新米石に又新米の石にをうけ六十又古米
石に加一を法して四を割古米石定三をうけ新米石なり

米を石代銀に拾圓麦を石代銀拾八圓石の代銀合を貫圓
三拾圓又米の銀より麦の銀外をより少米麦石敷を問

答曰米拾圓石八斗又升 麦三拾石

術曰麦の銀石に外をより石にをうけ米の銀石に又石にを加一
六十法して三十を割麦の銀石に又石にをうけ六十米の銀石に
米石代銀石に又石にを割米の石敷之麦の銀外麦石代銀又割麦石之

上米を石に拾圓下米を石三拾貳圓代銀合に貫圓上銀三
分之下銀と等し上下石敷を問

答曰上石貳拾石 下石拾石

術曰上米の銀石に又上米の銀石に合石に又石にを割下米の銀石に
三をうけ六十上米銀より上石に又割上石之下の銀石に又割下石之

米石に拾六石麦石貳拾八石代銀合百貳拾貳石米代銀等
分として米麦石敷を同

善曰米又拾石 麦九拾貳石

初日合米 又米の け け け
貳石 貳石 六石 八石 八石

三十 実少して米麦石の代銀合七十 刻
貳石 麦石と 乃内して列余米石なり

新米石三拾六石古米石に拾貳石

石敷合六十石新米代銀古米代銀
三百九拾石新古石敷を同

善曰新米に拾石古米貳拾石

初日六拾石新米の 内 列余

新米石	六十石
古米石	六十石
新米代銀	三十石
古米代銀	三十石
代銀	六十石

実少して新古石代銀合七十 刻古米石 内列余新古石

米三百貳拾石麦三百石代銀合貳拾貳貫百石米石代銀分麦

善曰米に拾石 麦三拾貳石

初日米三石内二刻の け け け
米 米 米 米 米 米

米又米 三石 十石 七石 十石 十石 刻米

米石代銀なり 米又 け け け 米石代銀なり

米石三拾八石大豆石三拾貳石石敷

合八石代銀合拾七貫貳百石米大

豆石敷を同

善曰米貳百石大豆三百石

米石	二百石
大豆石	三百石
米代銀	拾七貫貳百石
大豆代銀	拾七貫貳百石
代銀	拾七貫貳百石

米石	二百石
麦石	三百石
米代銀	拾七貫貳百石
麦代銀	拾七貫貳百石
代銀	拾七貫貳百石

御日報まじりの内うち引余ひきあ上あへ又また引上ひきあを人ひととと内うちに引ひく

余あ下した毎まい日にち毎まい日にちの内うちに引余ひきあ上あへ又また引上ひきあを人ひととと内うちに引ひく

善よ日にち彌やを名な八はち分ぶん 谷や式しき七しち分ぶん

御おん日にち彌やを谷や式しき二に分ぶんに引余ひきあ上あへ又また引上ひきあを人ひととと内うちに引ひく

御おん日にち彌やを谷や式しき二に分ぶんに引余ひきあ上あへ又また引上ひきあを人ひととと内うちに引ひく

善よ日にち彌やを名な八はち分ぶん 谷や式しき七しち分ぶん

御おん日にち彌やを谷や式しき二に分ぶんに引余ひきあ上あへ又また引上ひきあを人ひととと内うちに引ひく

御おん日にち彌やを谷や式しき二に分ぶんに引余ひきあ上あへ又また引上ひきあを人ひととと内うちに引ひく

善よ日にち彌やを名な八はち分ぶん 谷や式しき七しち分ぶん

御おん日にち彌やを谷や式しき二に分ぶんに引余ひきあ上あへ又また引上ひきあを人ひととと内うちに引ひく

御おん日にち彌やを谷や式しき二に分ぶんに引余ひきあ上あへ又また引上ひきあを人ひととと内うちに引ひく

善よ日にち彌やを名な八はち分ぶん 谷や式しき七しち分ぶん

